

国際学術コンソーシアム（AC21）推進室活動報告

岩 城 奈 巳

はじめに

2002年名古屋大学によって提唱され、設立された国際学術コンソーシアム（以下 AC21）は6年目を迎えた。2年毎の国際フォーラム、学生世界フォーラム、国際共同研究、共同教育プログラム、学生交流、国際産学官連携プロジェクトなどの活動を展開し、国内外において AC21の活動が広く知られるようになってきた。2008年度は、AC21の過去5年間の活動を振り返るポジションペーパーの作成、新メンバーの加入、AC21メンバー間の共同研究を推進するプロジェクトなど、AC21の更なる発展に向けての新たなスタートの年となった。

I. 2008年度活動報告

1. 第4回 AC21国際フォーラム開催

AC21の重要な活動を担っている国際フォーラムが、アメリカ・ノースカロライナ州立大学にて7月27日から30日に開催された。テーマは“University Partnerships: Global Collaboration and Innovation for the 21st Century”とされ、サブテーマとして“International Student and Academic Exchange”, “Challenges for Global Higher Education”, “Innovation and Technology Transfer”の3つが設けられた。世界各国のメンバー大学の学長、副学長をはじめ、大学関係者、学生、政府機関・企業・地方団体関係者等、約120名が参加した。名古屋大学からも、大学院生を含め多くの関係者が参加し、各自テーマに沿って発表及びポスターセッションをおこなった。開会式では、ノースカロライナ州立大学オブリンガー学長、名古屋大学平野総長、玉井文部科学審議官による挨拶があった。イギリス・ウォリック大学で開催された第3回の国際フォーラムと比較すると全体の参加人数は少なかったが、ウォリック大学では少なかった AC21のメンバーが大勢参加した。お互いが顔を見て、AC21について話し、今後の活動についてなど意見

交換を行えたことを考えると、今回のフォーラムは大きな成功であり、AC21にとって大変重要なフォーラムになった。

2. 第6回 AC21運営委員会開催

国際フォーラムにあわせ、運営委員会が開催された。6年が経過した AC21のこれまでの活動成果を確認し、今後の活動計画を議論した。主な課題は、1. 新年会費基準と年間支出計画案、2. ポジションペーパー改訂版の承認、3. 新メンバー決定基準とメンバー候補、4. 次回以降の国際フォーラム及び学生世界フォーラムについての4点であった。1では前回の運営委員会に提案された新しい会費基準と例外規定が承認されるとともに、会費を利用したプロジェクト支援金制度を決定した。これについては8. の AC21スペシャル・プロジェクト・ファンドの報告にて詳しく説明する。2では、前回の運営委員会にて議論されたポジションペーパーの改訂版を総会へ提出することが承認された。3では、新メンバー決定基準を確認し、アデレード大学（オーストラリア）のメンバー加入を総会に提案することを決定した。4では2009年ケムニッツ工科大学（ドイツ）での学生世界フォーラム及び2010年上海交通大学での国際フォーラムの計画を発表するとともに、2011年の学生世界フォーラムの開催地としてチュラロンコン大学（タイ）が立候補し、承認された。今回の運営委員会は、運営委員会メンバーの全大学が揃い、それぞれが積極的に AC21の活動を提案し、大変充実した委員会となった。

3. 第3回 AC21総会開催

国際フォーラム開催毎に行われる総会にて、運営委員会が提案した上記1から4が議論され、すべて承認された。また、アデレード大学の AC21加盟も正式に決定した。運営委員会同様、総会にもたくさんのメンバーが参加した。AC21の活動が様々に広がり、有力大学が新たに加盟したことも手伝い、参加大学が AC21の意義を認め、活用していきたいとの姿勢が強く感じ

られるようになった。

4. 新メンバー加入

先の運営委員会及び総会の報告にもあったように、オーストラリアのアデレード大学がAC21への加盟を果たした。その他、AC21推進室には複数の大学より加盟に関する問い合わせがあり、少しずつではあるがAC21の知名度が上がってきていると感じる。ここでは、アデレード大学が加盟に至った経緯について触れておく。2008年に開催されたAPAIE (Asia Pacific Association for International Education)にてAC21推進室がコンソーシアムについての発表を行った際、同大のタブリン副学長がAC21ブースに寄られ、大変な興味を示した。オーストラリアに帰国後、再度タブリン副学長より加盟の意思が示され、規定により(新メンバー加盟の際は必ず現メンバーが加盟希望大学を推薦する)名古屋大学がアデレード大学を推薦した。同大は、AC21加盟大学と強い関係を持っており、加盟することによって多くのメリットを得られると確信したのが最大の加盟理由だと話している。タブリン副学長は加盟後も精力的にメンバー校を訪問しており、事務局以外でもこのようにAC21のPRのため動いているメンバーがいることは大変心強い。今後も、AC21のメリットを感じて加盟し、アデレード大学のように活動してくれるメンバーを増やすことが重要である。

5. メンバー校への訪問

本年度は昨年度ほどの訪問は行わなかったが、チュラロンコン大学、復旦大学、同済大学、アデレード大学、ラオス国立大学を訪問した。結果、チュラロンコン大学が2011年学生世界フォーラムを開催することが決定した。その他、訪問した大学とはAC21の様々な可能性などを探り、有意義な話し合いができた。メンバー大学を訪問し、お互い顔を見ながら話をするこの大切さを感じた。

6. メンバー校からの訪問

本年度は、チュラロンコン大学、ケムニッツ工科大学よりAC21推進室への訪問があった。チュラロンコン大学は2011年度、ケムニッツ工科大学は2009年度の学生世界フォーラム開催校なので、過去の名古屋大学でのフォーラムの成果などについて話し合った。

7. AC21発表

昨年度に続き、AC21のPR活動も兼ね、5月にアメリカ・ワシントンDCにて開催されたJSPSとNational Science Foundationのフォーラム、2月にアメリカ・ジョージア州にて開催されたAIEA (Association for International Educators Administrators) 年次総会にて、AC21の活動についての発表を行った。AIEAは、AC21運営委員会メンバーのノースカロライナ州立大学ブラウン副学長の提案で参加したものであり、ブラウン副学長と共同発表を行った。

8. AC21スペシャル・プロジェクト・ファンド

AC21スペシャル・プロジェクト・ファンドは、メンバー間の研究・教育交流の発展を促進するために各メンバー大学から徴収される会費を利用し、メンバー間で開催される様々な行事や研究プロジェクトの一助となるように支援金を提供するもので、第3回総会にて承認された。これまでAC21ではシドニー大学及び名古屋大学が、それぞれ両大学とメンバー間の様々な共同プロジェクトを支援するために期限付きの基金を設立してきたが、このプロジェクト・ファンドはAC21会費を利用しており、メンバー大学すべてに応募の機会がある。応募可能なプロジェクトは、AC21の継続的なプロジェクトに発展する可能性のある、またはAC21の発展に寄与する研究/教育/運営/国際交流に関するもので、AC21の趣旨に沿ってメンバー大学が2カ国以上3大学以上参加する共同プロジェクトが条件となっている。運営委員会の審査によって決定されるファンドは、1年間でAC21メンバーとのプロジェクトの企画などを推進することが期待されており、このファンドを通じてメンバー間の交流がますます発展していくことを希望する。

9. AC21ウェブサイトリニューアル

AC21について、より必要な情報にアクセスし易いウェブサイトを目指し、リニューアルを行った。今までの情報に加えて、各メンバー大学の最新ニュースを読むことができるようになり、メンバー大学教職員、学生世界フォーラム関係者が掲示板を利用して情報交換やフォーラムで培ったネットワークを継続させることが可能になった。今後もAC21のウェブサイトを利用し、メンバー同士が交流を深めて行くことを目指したい。

II. AC21の今後の活動と課題

AC21の今までの活動と今後の課題を運営委員会にて振り返ることで、これからのAC21の課題が明確になりはじめた。評価する点は、2年に1度の国際フォーラムではAC21メンバー校以外にも、大学、教育期間、企業等が参加し、成功をおさめていること、そして、フォーラムのみでなく、AC21メンバー校がそれぞれのメンバーを中心とする共同研究や協力プロジェクトを推進し、日常的な連携も強化されつつあることである。名古屋大学にとって大きな挑戦である国際的な学術コンソーシアムの運営が、この6年間で着実な実績を挙げ、メンバー間で強い連帯感が生まれてきていることも、大きな成果である。昨年のメンバー校訪問や定期的に発信されるニュースレター、マンスリーレポートなどを通し、メンバー間でAC21が認識されてきたと言える。

その一方で、国際的な大学連携は国内外でますます活発になってきており、AC21として魅力ある活動やその成果がさらに期待されていることも確かである。これから行う活動が、AC21のさらなる発展と真価を問うことになるだろう。運営委員会にて立ち上げた、企業連携を推進するワーキンググループや、AC21の特徴の一つとなっている国際産学官連携が十分な成果に結びつくことを推進しなければならない。さらに、今年度から始まったスペシャル・プロジェクト・ファンドを利用した共同研究プロジェクト、教育連携、ベンチマーキングなど教職員交流等が大きく発展することが各AC21参加大学にとって大きな魅力となる。AC21推進室は、世界的な大学間交流の中核を担うべく、AC21を発展させることにより、結果としてさらにAC21の国際的認知度を増すことを目指さなければならない。

参考資料1：AC21イベントカレンダー

2008. 7	第4回 AC21国際フォーラム (於ノースカロライナ州立大学)
2008. 7	第6回 AC21運営委員会 (於ノースカロライナ州立大学)
2008. 7	第3回 AC21総会 (於ノースカロライナ州立大学)
2009. 6	第3回 AC21学生世界フォーラム (於ケムニッツ工科大学)
2009. 10	第7回 AC21運営委員会 (於名古屋大学)
2010. 10	第5回 AC21国際フォーラム (於上海交通大学)
2010. 10	第8回 AC21運営委員会 (於上海交通大学)
2010. 10	第4回 AC21総会 (於上海交通大学)
2011. [TBA]	第4回 AC21学生世界フォーラム (於チュラロンコン大学)

参考資料2：2008年度 AC21推進室活動記録

2008. 4. 24	第64回 AC21推進室会議
2008. 5. 15	チュラロンコン大学訪問
2008. 5. 19	第65回 AC21推進室会議
2008. 5. 22-23	JSPS National Science Foundation 会議出席・発表
2008. 5. 25-30	NAFSA 年次総会参加
2008. 6. 20	第66回 AC21推進室会議
2008. 6. 22-28	第1回 IFPU Summer School 参加
2008. 7. 11	第67回 AC21推進室会議
2008. 8. 4	ケムニッツ工科大学副学長訪問
2008. 9. 19	第68回 AC21推進室会議
2008. 10. 23	チュラロンコン大学来訪
2008. 10. 29	第69回 AC21推進室会議
2008. 11. 4-5	復旦大学・同済大学訪問
2008. 11. 5	第2回 IFPU 年次総会参加
2008. 11. 4-5	アデレード大学訪問
2008. 12. 12	ケムニッツ工科大学来訪
2008. 12. 18	第70回 AC21推進室会議
2009. 1. 20-22	ラオス国立大学訪問
2009. 1. 29	第71回 AC21推進室会議
2009. 2. 21-26	AIEA 年次総会出席・発表
2009. 3. 23	第72回 AC21推進室会議